

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月4日（火）
部会名	小学校 家庭部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
（含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実）

テーマ

『家庭科における課題解決学習について』

提案概要

これまで本校児童は、小学校家庭科における食分野において、「ゆでる→ご飯を炊く・みそ汁を作る→炒める」の技能を習得してきた。その食生活の学習集大成として、栄養バランスを中心要素とした1食分の献立を考えるという学習課題を設定した。

○実践の内容

- (1) 家庭科における課題解決学習
- (2) 課題解決に向けた個別最適な学び
- (3) 学び合いの中での評価・改善
- (4) 家庭との連携

○成果と課題

【成果】

・自分の課題に合った献立作り

「家族のための〇〇な献立を考えよう」という学習課題を設定したことで、家族構成や家族の好みを考慮しながら「自分事」として取り組む姿が見られた。

・主体的に学習に取り組む態度

栄養教諭に T2 として参加してもらい、児童の疑問をその場で解決できたことは、栄養素の基本的な知識の習得においても学びを深める要素となった。また家庭との連携により、事前アンケートが自分の家庭の食生活や家族の工夫を知るきっかけとなり、献立作成に有効だった。

・児童同士での学び合い

「ぼくの家ではこれを入れているよ。」という実体験からの助言や、テーマと献立の関連についての相互評価が生まれ、何段階かの学び合いを通して献立をブラッシュアップすることができた。

【課題】

・児童同士での評価の難しさ

それぞれが自分の家族を想定した献立のため、家族の情報が不十分だと助言が難しい。

・児童の家庭環境への配慮

児童の実態によっては十分な配慮が必要であることを踏まえておきたい。

質疑応答

全体の場合での質疑応答

質問① 普段から栄養教諭と連携をとって授業を進めているのでしょうか。

→ 応答 各授業の際は、その都度栄養教諭（市内2名）に連絡して、地区担当者と日程調整を行っています。

質問② 家庭で実際に調理したということですが、それは自由課題として設定したものか。

→ 応答 授業内では、「献立作成」までを扱っており、あくまでも児童が自主的に作ってみたという形です。

協議の柱及び協議の概要

協議の柱 「自分事として学習に臨むための手立て」

協議に関するキーワード

1 自分事 2 課題設定 3 課題解決 4 相互評価 5 学習進度の差

協議グループは前半は小中別グループ、後半は小中合同の1グループ3～4人で構成された。

（前半）

- ・家庭のことなので考えやすい。
- ・家庭環境も様々で親が忙しく家庭環境の差が出やすい。
- ・自由度が高いと深めるのは難しい。

（後半）

- ・地域の協力が得られるといいのではないか。
- ・「自分事とする為には？」「生活の中にどんな問題があるのか？」などの投げかけがいいのではないか。
- ・修学旅行などを通して教員の方で神奈川県から視野を広げる工夫をすることで、児童生徒が自分事として捉える視点を段階的に広めていくことができるのではないか。
- ・支援が必要な家庭がある中、自分の家庭生活が学びになっていく、楽しさを感じているようだった。

グループごとの協議がなされ、自由に意見交換をしながら、対話を深めていった。前半は、協議した内容をA3のコピー用紙にまとめ、協議後それらを見て回る形式をとった。後半は小中合同の協議を行うことで、小中連携の視点に立った話し合いを進めることができた。

まとめ概要

本実践で最も意識したのは「家庭科における課題解決学習」であり、その中でも課題設定が最も重要である。課題をいかに「自分事」として捉え、夢中になって取り組める課題を設定するかが重要である。家庭科における課題解決学習の良さは、家庭や地域と連携しながら自分に合った解決方法を取捨選択しながら進め、再度思考するという一連の流れの中で思考を深められる点である。

「自分事」として課題を捉え、家庭や地域との連携をする中で、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びができる実践をしていくことが、今後学習を進める上でも重要ではないだろうか。